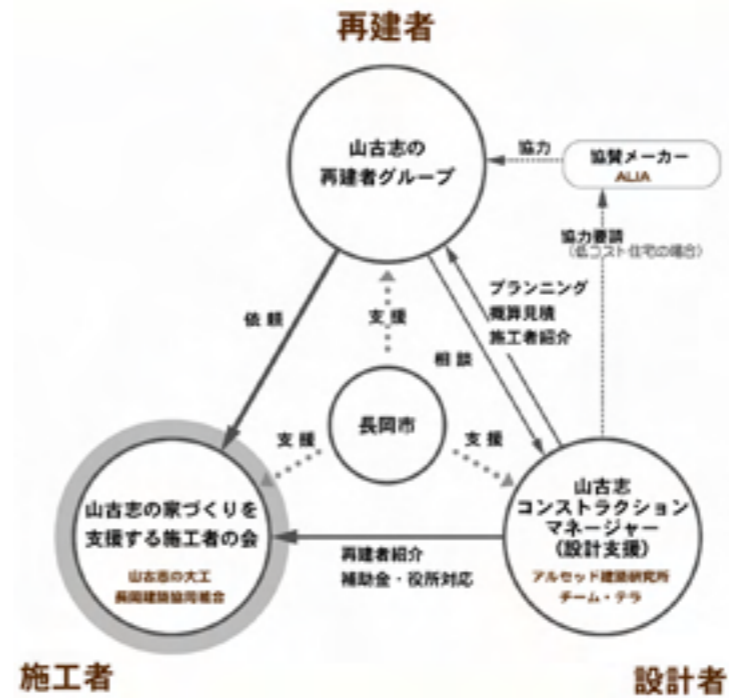


山古志からはじまる 地域型復興住宅の取組み

武田 光史 (アルセッド建築研究所)



01



【図1】供給体制図



02



03

■はじめに

本誌のテーマは環境共生ですが、ここでは広義に解釈し、地域の住環境や集落コミュニティの再生に取り組んだ中越地震の被災地・山古志について報告し、東日本大震災の復興のあり方について考えます。

筆者の所属する研究所では、地域の気候風土や生活、住文化に根差した木造住宅づくりを各地の施工者・設計者グループと協働で推進しています。

1984 (昭和 59) 年度にスタートした佐賀県有田町の地域住宅計画 (HOPE 計画) にはじまり、富山県、福井県、福島県等で地域住宅を支援してきた経緯から、2004 年の中越地震の被災地・長岡市山古志地域における住宅再建を支援する機会を与えられました。

■山古志における「中山間地型復興住宅」のコンセプト

長岡市山古志地域では、一人でも多くの被災者が自力で住宅再建できるよう、雪に強く山の暮らしに配慮され、約 1 千万円で建築できる住宅モデル「中山間地型復興住宅」を検討する委員会が組織されました。

委員会のコンサルタントとして参画した我々は、まず山古志にふさわしい地域住宅のモデルを山古志の大工と検討し、その中で最も小さく、最も安いものが約 1 千万円で建築できれば良いと考えました。中山間地型復興住宅の主な特徴は次の通りです。

①山古志の大工とのワークショップによる検討プロセス

②大工技術を活用し、将来も地域で維持管理できる在来軸組構法・内部真壁の木造住宅 (写真 01)

③積雪 3m に対応できる自然落雪屋根、吹き抜けによる冬季の採光確保

④新潟県産スギの最大限活用

⑤中門造りの民家の風景を継承した、板張りで軒の深い外観 (写真 02)

⑥最上階は間仕切り・建具・壁仕上げのない未完成住宅 (早く安く住みはじめ、徐々に仕上げることにより復興後の大工仕事を継続)

■「中山間地型復興住宅」の供給体制

震災復興では、限られた期間内に、多くの住宅を合理的な価格で効率的に供給する必要があります。そこでまず、住宅のプランニング・構造・概算工事費算出方法をルール化しました。

次に、不足する施工者の手を補うため、長岡建築協同組合の有志による施工チーム「山古志の家づくりを支援する施工者の会」、長岡の設計者による設計支援チームを立ち上げ、住宅再建者に対応しました。(図 1)

一方、自力での住宅再建が困難な世帯には、集落単位にきめ細かく木造公営住宅を整備し、集落コミュニティの継続に配慮しました。将来の払い下げを考慮して戸建て、二戸ーを中心とし、二戸ーは戸境壁を撤去して戸建てに可変できる工夫をしています。

最終的に、試作棟 2 戸、自立再建住宅 18 戸、公営住宅 35 戸、計 55 戸の中山間地型復興住宅が実現しました。地域型木造住宅による組織的な復興を推進した初の事例と言えると思います。

■山古志から東北へ、地域型復興住宅の展開

東日本大震災の復興において、安全なまちづくりは大前提ですが、高台以外に木造住宅が建築できないと、復興まちづくりの選択肢が大幅に狭まります。

そこで、地域ごとに津波の高さと速度の調査・予測を行い、避難・防災を前提とした上で、地域型木造住宅による復興が必要であると考えます。

東北の木材と気仙大工に代表される大工技術により、気候風土・住文化・風景や街なみに調和し、防災・省エネ・創エネ・基本性能に配慮されたローコスト復興住宅を開発し、現地主体の供給体制を構築することが急がれます。

想定浸水高さが 0 ~ 1m の地域では、耐震性を高めた木造住宅による再建が可能です。想定浸水高さが 2 ~ 3m の地域では、地盤全体をかさ上げするのではなく、1 階を RC 造として津波に対する水平耐力を高め、生活階を 2 階に上げた木造住宅が有効です。その際、1 階は車庫だけでなく、店舗、夏季限定の茶の間、コミュニティスペース等とすることで、沿道のアメニティを高めます。

一方で、被災地の施工者を、地域外の施工者がサポートする住宅供給体制の構築が必要となります。山古志と違い、県

外からの応援体制も必要でしょう。

公営住宅も大量に供給する必要がありますが、コミュニティの継承のためには、公営住宅だけの団地をつくるのではなく、自立再建住宅、将来の払い下げを想定した公営住宅、福祉・コミュニティ施設、生業空間 (店舗・作業場等) 等が複合した地域社会として再生することが大切です。

■おわりに

筆者の研究所がまちづくりのお手伝いをしている福島県南会津町の前沢集落 (写真 03) は、明治 40 (1907) 年の大火後、焼け野原から村づくりをはじめ、約百年後の今年、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。私たちも、百年後の子どもたちに誇れるような復興まちづくりを進めることが望まれます。



武田 光史 (たけだ こうじ)

1970 年生まれ。京都府出身。1996 年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。1996 年アルセッド建築研究所入所。一級建築士。主に木造住宅・木造建築に関する調査・研究開発・コンサルタント・設計・監理に従事。富山、越前大野、山古志等において地域に根ざした木造住宅づくりを推進。